

農繁期

レポート

令和元年 7月号

栄ファーム

オーナー
水田面積
保証量
形態品種

栄運輸工業株式会社
18.4アール
玄米828kg
特別栽培コシヒカリ



生産者

三上惇二さん



例年にない遅い梅雨入りとなりました。ちょうど中干の時期と被り米の生産者が皆頭を抱えていましたが少々乾き分ケツもとまり次の穂の成長の方に向かいました。ケタの雑草も梅雨の涼しさで伸びが悪く楽な草刈りになりました。もう少し気温が欲しいところですがすべては天気次第です。今までの経験を頼りに臨機応変にお米と向き合っています。

1. 中干し 2. 追い肥

6月に分けつを繰り返した稲の成長を7月で一旦止めます。「中干し」といって田んぼの水を抜き、土の中にたまったガスを抜いて新鮮な空気を入れます。根を地中にめぐらし健全に育てる目的と土が固まることで稲刈りのコンバインが走りやすくなる効果もあります。さらに稲の倒伏予防にもつながる為、非常に重要な作業です。またこの時期は田起こしの時に蒔いた肥料がなくなる頃で、追い肥を行います。1回目の肥料はイネの茎や葉っぱを成長させるため、2回目の追い肥はお米の粒を増やし、大きくすることを目的として、収穫量を確保するために行います。ただし肥料の量が多過ぎるとイネの長さが伸びすぎて倒伏したり、品質の劣化、食味の低下につながります。

7月の作業と稲

<中干し>



<電柵設置(猪対策)>



<追い肥>



<稲の花>

